

横須賀基督教社会館  
中長期構想・事業再編の考え方

【地域福祉の包括的イメージ】

社会館中長期構想に向けてのまちと社会館の目標イメージ

地域の中にいろいろな人たちが日常的に集まれる場があり、住民たちが日常の生活を支え合い、その担い手は子ども、障害者、高齢者も含まれる。

より支援の必要な人に対しては、社会館と他機関、住民が連携し家族福祉とライフサイクルの視点を持って支援する。

障害者と高齢者の在宅生活維持のための地域リハビリテーションに力を入れ、将来的には住まいと医療との連携を構築する。

このまちのイメージを計画的、段階的に実現するためには、住民参加による「たうらまちづくり計画」の策定と担い手となる人材の養成、そして何よりも社会館の専門施設としての側面からのかかわりが不可欠である。

(福祉のまちづくり, コミュニティ・ケア, コミュニティ・ソーシャルワーク, コミュニティ・オーガニゼーション, 地域包括ケア)

【基本方針】

1. 現在の事業・サービスの質と特徴を高める。
2. 地域とのつながり・参加をより進める事業を推進する。
3. 地域を基盤にした統合的・開拓事業を推進する。
4. 地域の潜在化したニーズを掘り起こし、対応・連携する実践力を高める。
5. 「たすけあい」「自然」「お年寄り」「歴史」など“田浦のよさ”を生かした実践を作り出す。

【新実践コンセプト】

1. いろいろな人たちの交流の場(サロン)をつくっていく。
2. 住民参加による日常生活支援
3. 子ども・高齢者・障がい者もまちの担い手(当事者活動の支援)
4. 家族全体に対する連携支援
5. ライフサイクルによる支援(障がい児含む子ども)
6. 健康で豊かさのある生活
7. 高齢者・障がい児者の生活と地域リハビリテーション
8. 夜間の支援(泊まり機能)